

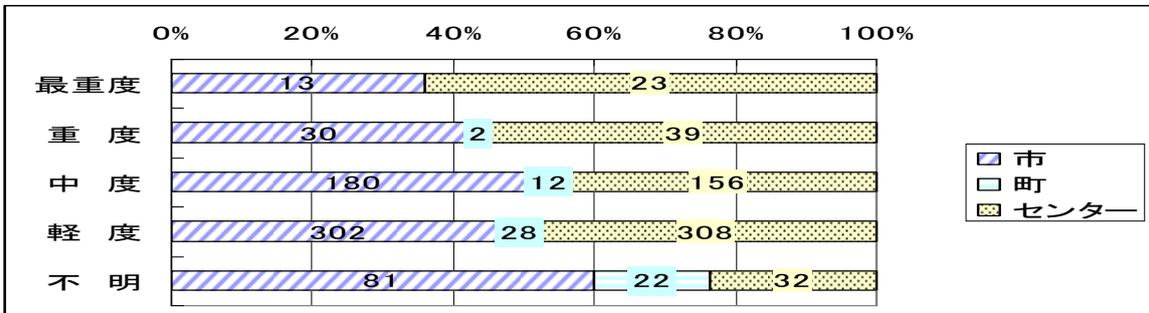
(4) 市町村とセンターの課題

① 分担

最重度を担当する割合は、こども家庭相談センターの割合が高く、重度、中度と減少し、市の担当割合は反対に増えていく。しかし、軽度になると、子ども家庭相談センターの占める割合は再び上昇している。

これについては、児童虐待の対応体制が整っていない市町村については、こども家庭相談センターが担うことになり、児童相談所の負担になっている。

図表 6 7 虐待の程度と市町村・こども家庭相談センター担当別



② 調査回答について

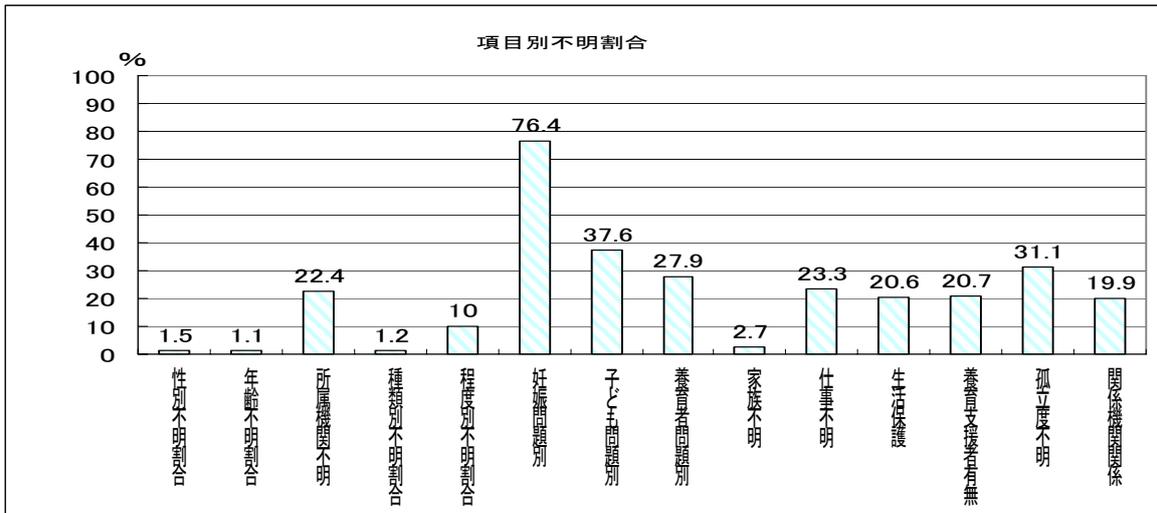
不明率が高い。

妊娠・周産期の問題についての不明の回答が特に多い。妊娠期等の問題把握は、子どもの生育歴や、親の生活歴を理解したうえで、ケースをみたてる重要な事項である。

今回の調査で明らかになった不明の多さは、このような認識が不十分であったことが背景にあったためと推測され、今後の残された課題であることを示している。

通告を受理したばかりの事例についても今回の調査では含まれるものの、すでに受理して担当・対応している事例も多い。その中で不明の回答が多かったことについては、今後の担当人員や担当の専門性なども含めた体制整備についての検討が必要であろう。

図表 6 8 項目不明割合



図表 6 9 虐待の程度

	全 体	市	町	村	センター
調査数	1228	606	64	0	558
最重度	36	13	0	0	23
重 度	2.9	2.1	0	0	4.1
中 度	71	30	2	0	39
軽 度	5.8	5	3.1	0	7
不 明	348	180	12	0	156
無回答	28.3	29.7	18.8	0	28
軽 度	638	302	28	0	308
不 明	52	49.8	43.8	0	55.2
無回答	122	72	22	0	28
無回答	9.9	11.9	34.4	0	5
無回答	13	9	0	0	4
無回答	1.1	1.5	0	0	0.7

図表 7 0 妊娠・周産期、被虐待児、養育者の問題の有無

	全 体	市	町	村	センター
調査数	1228	606	64	0	558
あ り	168	50	13	0	105
な し	13.7	8.3	20.3	0	18.8
不 明	121	86	14	0	21
無回答	9.9	14.2	21.9	0	3.8
無回答	936	468	37	0	431
無回答	76.2	77.2	57.8	0	77.2
無回答	3	2	0	0	1
無回答	0.2	0.3	0	0	0.2

被虐待児の情緒・行動上の問題の有無

	全 体	市	町	村	センター
調査数	1228	606	64	0	558
あ り	484	219	18	0	247
な し	39.4	36.1	28.1	0	44.3
不 明	281	150	18	0	113
無回答	22.9	24.8	28.1	0	20.3
無回答	461	237	28	0	196
無回答	37.5	39.1	43.8	0	35.1
無回答	2	0	0	0	2
無回答	0.2	0	0	0	0.4